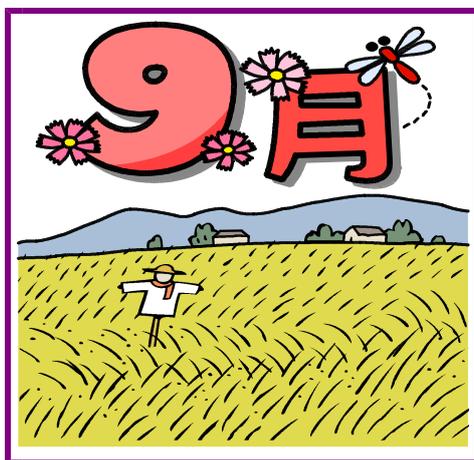


めぐみイエス・キリスト教会

2021年9月12日(日)第二主日礼拝
週報「通算第574号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌21「輝く日を仰ぐ時」 p. 28

【交読文】 No.11詩篇第32篇 p. 887

【賛美Ⅱ】 新聖歌176「イエスは汝を呼び給う」 p. 254

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」

【聖書朗読】 使徒の働き11章27節～30節(新約p. 257下段)

【礼拝説教】 《大飢饉と愛の支援》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き11章27節～30節)

11:27 その頃、預言者たちがエルサレムからアンティオキアに下って来た。

11:28 その中の一人で名をアガボという人が立って、世界中に大飢饉が起こると御霊によって預言し、それがクラウディウス帝の時に起こった。

11:29 弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。

11:30 彼らはそれを実行し、バルナバとサウロの手に託して長老たちに送った。

●ポイント1. 「預言者たちが下って来た」こととは？

※第Ⅰコリント12章28節「使徒パウロの証しから」 (新約p.345下段)

12:28 神は教会の中に、第一に使徒たち、第二に預言者たち、第三に教師たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。

※第Ⅰコリント14章1節および3節「預言とは」 (新約p.346下段)

14:1 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。

14:3 しかし預言する人は、人を育てる言葉や勧めや慰めを、人に向かって話します。

●ポイント2. 「アガポ」とは？

※ルカの福音書10章1節「主の二回目の弟子の派遣」 (新約p.134上段)

10:1 その後、主は別に 72 人を指名して、ご自分が行くつもりすべての町や場所に、先に二人ずつ遣わされた。

■アガボ エルサレムのキリスト者。名前の由来はいなご。世界的規模の大飢饉を預言し、預言はクラウディウスの時代(ヨセフォスによれば紀元46年頃)に的中し、アンティオキア教会は救援の物資をエルサレムに送った。のちに、第3回伝道旅行を終えたパウロとカイサリアで再会し、パウロがエルサレムで捕縛され異邦人の手に渡されることを預言した。

※使徒の働き21章10節～11節「パウロへの預言」 (新約p.279上段)

21:10 かなりの期間そこに滞在していると、アガボという名の預言者がユダヤから下って来た。

21:11 彼は私たちのところに来て、パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って言った。「聖霊がこう言われます。『この帯の持ち主を、ユダヤ人たちはエルサレムでこのように縛り、異邦人の手に渡すことになる。』」

●ポイント3. 「愛の支援」とは？

※使徒の働き12章25節「任務の遂行とヨハネ・マルコ」 (新約p.259上段)

12:25 エルサレムのための奉仕を果たしたバルナバとサウロは、マルコと呼ばれるヨハネを連れて、戻って来た。

※第Ⅱコリント9章6節～12節「豊かに種を蒔く人」 (新約p.366下段右側)

◎先週のメッセージの概要【キリスト者(クリスチャン)と呼ばれ】

《アンティオキアにおいて、リバイバルが起こりました。エルサレム教会は、聖霊と信仰に満ちた人、バルナバをアンティオキアに遣わしました。バルナバは、いつも主に留まっているようにと皆を励まし、さらに彼によって、大勢の異邦人が主に導かれました。アンティオキア教会の土台を築いたのはバルナバです。バルナバは、ほぼ二年間、一人で教会を導きましたが、働きの手助けをする協力者の必要が急務になって来たのです。

聖霊がバルナバに働きかけ、彼は10年ほどの前のことを思い出します。それは、かつての迫害者サウロがエルサレムに帰還した時の事でした。サウロの面倒を見たのはバルナバです。しかし、ユダヤ人たちがサウロを殺そうとした為、バルナバは、サウロをタルソへ送り出しました。

その後サウロは、生まれ故郷タルソを中心として、シリアおよびキリキア地方への伝道をしていたのです。バルナバはサウロを捜しに行きます。アンティオキアからタルソまでは160キロほどの距離です。そして聖霊の導きによって、サウロを見つけ出し、連れて帰ります。サウロの加入によって、アンティオキア教会はさらに発展を遂げて行くことになるのです。

「弟子たちは、アンティオキアで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。」とルカは書き記しています。ところで、「キリスト者」とはどのような意味なのでしょう。それは、主イエスに似た者であると言う事です。バルナバは、真に聖霊と信仰に満ちている指導者でありました。彼だからこそ、サウロを再び教会に結び付け、新約時代の表舞台に立たせることが出来たのです。バルナバが存在したからこそ、使徒パウロが誕生し、異邦人伝道への宣教本部となる、アンティオキア教会が誕生したのです。

私たちは皆、御霊の働きによって、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていきます。「キリスト者」は、この世とは分断された存在です。しかし、この世に置かれ、この世に生かされています。それは、世の光として、地の塩としての使命が、それぞれに与えられているからです。》

◎お知らせ

※第三主日礼拝は、平常通り9月19日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、9月15日(水)各家庭において行ないます。